

くすり一口メモ

点滴速度に注意すべき注射薬

カリウム製剤や高濃度リドカイン製剤の急速静注による医療事故が全国で相次いで発生したことは記憶に新しいことと思います。点滴速度に注意すべき注射薬は数多く存在し、の中には、抗生物質やステロイド薬などのハイリスク薬以外の注射薬も含まれています。点滴速度が定められている理由は、急速に静脈内投与すると血管炎や血管痛を起こしたり、又、心停止や血圧低下などの致命的な副作用を起こしたりする可能性があるためです。以下、鹿児島市医師会病院採用薬の中で、点滴速度に注意すべき注射薬（抗がん剤およびカテコラミン系循環器用剤を除く）についてまとめました。紙面の都合上、一部を商品名（成分名）でご紹介します。

アスパラK (L-アスパラギン酸カリウム), KCL (塩化カリウム)	カリウム製剤
速度 カリウム濃度として40mEq/L以下で希釈し、8ml/分を超えない速度で点滴静注	
理由 カリウム剤を急速静注すると、不整脈、場合によっては心停止を起こす	
アミノニック, アミノレバン, モリヘパミン, ネオアミュー (アミノ酸)	アミノ酸輸液製剤
速度 アミノニック：100mlあたり1時間, ネオアミュー：100mlあたり60～90分（1分間約25～15滴）を基準 アミノレバン：500mlあたり180～300分を基準, モリヘパミン：500mlあたり180分以上を基準	
理由 アミノ酸による悪心・嘔吐を予防し、また、アミノ酸の利用効率を良くする	
アレピアチン (フェニトイン)	抗てんかん薬
速度 2.5～5mlを1分間1mlを超えない速度で徐々に静注	
理由 急速静注すると、心停止、一過性の血圧低下、呼吸抑制等の循環・呼吸障害を起こすことがある	
イントラリピッド, イントラファット, イントラリボス (ダイズ油)	脂肪乳剤
速度 10%500mlまたは20%250mlを3時間以上かけて点滴静注	
理由 静脈炎、血管痛、発熱、嘔気、嘔吐、悪寒、顔面紅潮、頻脈、頻呼吸等の急性症状を起こすことがある	
エリスロシン (エリスロマイシン)	マクロライド系抗生物質
速度 1回2時間以上かけて点滴静注	
理由 急速な静注により、心室頻拍 (Torsades de pointesを含む) が発現したとの報告がある	
オリベス点滴用1%・200ml (リドカイン)	抗不整脈剤
速度 0.1～0.2ml/分の速度で点滴静注。必要時の最大投与速度は0.4ml/分までとする	
理由 急速な静注により、心停止などの重篤な副作用が現れる	
カルチコール (グルコン酸カルシウム)	カルシウム製剤
速度 緩徐に (本剤1.7～3.5ml/分, カルシウムとして 0.68～1.36mEq/分) 静注	
理由 急速な静注により、心悸亢進、徐脈、血圧変動、熱感、潮紅、発汗等の症状が現れることがある	
セルシン (ジアゼパム)	マイナートランキライザー
速度 なるべく太い血管を選び、できるだけ緩徐に (2分間以上の時間をかけて) 静注	
理由 急速静注時、または細い静脈血管に注射すると、血栓性静脈炎を起こすことがある	
ソル・メドロール (メチルプレドニゾン)	ステロイド剤
速度 緩徐に静注または点滴静注	
理由 高用量を急速静注 (500mgを超える用量を10分未満で投与) することにより、心停止、循環性虚脱、不整脈などが現れたとの報告がある	
タガメット (シメチジン), ザンタック (ラニチジン)	H2受容体拮抗剤
速度 タガメット：できるだけ時間をかけて緩徐に静注。心血管患者、全身状態の悪い患者、術後の患者には点滴静注。 ザンタック：50mg投与の場合は20mlに希釈して2分以上かけて静注。100mg投与の場合は1時間以上かけて点滴静注。	
理由 急速な静注により、まれに不整脈、血圧低下を起こすことが報告されている (タガメット)	
ダラシンS (クリンダマイシン)	リンコマイシン系抗生物質
速度 300～600mgを100～250mlの生食等に溶解し、30分～1時間かけて点滴静注	
理由 急速静注により心停止を起こす可能性がある	
トランサミン (トラネキサム酸)	抗プラスミン剤
速度 ゆっくり静注	
理由 急速静注により、まれに悪心、胸部不快感、心悸亢進、血圧低下等が現れることがある	
トルミカム (ミダゾラム)	催眠鎮静剤
速度 なるべく太い血管を選び、できるだけ緩徐に (1分間以上の時間をかけて) 静注	
理由 急速静注時、または細い静脈血管に注射すると、血栓性静脈炎を起こすことがある	
タゴシット (テイコプラニン), 塩酸バンコマイシン (塩酸バンコマイシン)	グリコペプチド系抗生物質
速度 タゴシット：30分以上かけて点滴静注, 塩酸バンコマイシン：60分以上かけて点滴静注	
理由 急速なワンショット静注または短時間の点滴静注により、レッドマン症候群、血圧低下等が現れることがある	

【参考文献】各社メーカー 添付文書
(鹿児島市医師会病院薬剤部 桐野 玲子)